

## 御所野学院の今後のあり方について — 「併設型」から「連携型」へ —

### 1 連携型への移行について

#### (1) 併設型中高一貫校としての御所野学院における課題

平成27年6月～10月に開催した、御所野学院検討委員会においては、現行の併設型のままでは、以下の課題の改善は困難であるとの答申が示されました。

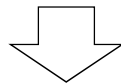
(課題)

- ・中高一貫教育校としての入学者数や学院高等学校への進学者数の減少傾向が続いている
- ・御所野地区住民の地元中学校の設置を要望する根強い声がある

#### (2) 「併設型」から「連携型」へ

平成27年12月から取り組んでいる検討プロジェクトにおいては、次の3点を課題の改善に向けたポイントとして協議を進め、「併設型」から「連携型」へ移行する案をまとめました。

- 開校以来実施してきた表現科や郷土学、中高合同活動、国際教養大学との連携による英語教育など、中高6年間をとおしたカリキュラムは、学院ならではの特色ある取組であり、これまで本市教育の充実に寄与してきた価値ある教育プログラムであることから、今後も継続すべきである。
- 中高一貫校への進学を希望しない児童の、御野場中学校への通学の負担等が課題となっていることから、御所野地区を学区とする中学校を設置すべきである。
- 高校入学段階で生徒を募集することにより、高校の定員を確保することができる新たな制度を検討すべきである。



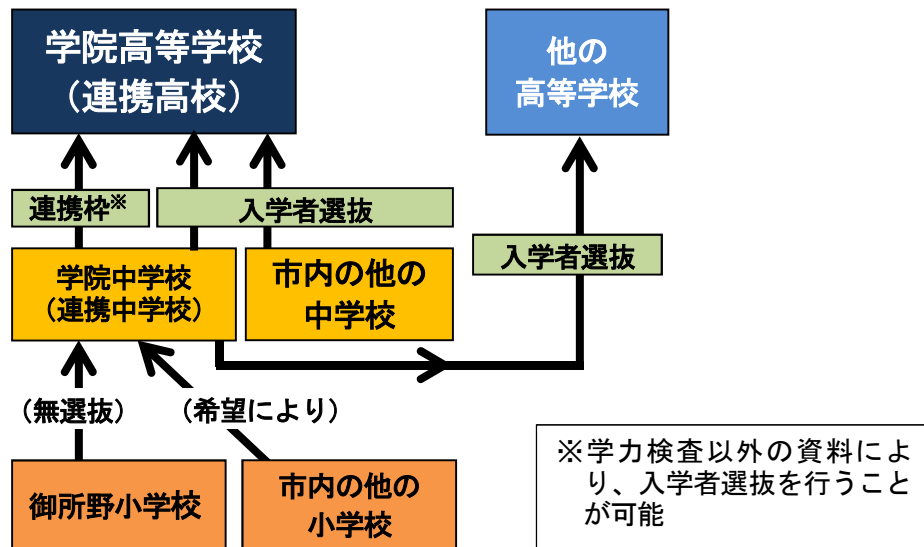
御所野学院における特色ある中高一貫教育プログラムを継続するとともに、御所野地区を学区とする中学校の設置と、入試により高等学校の定員を確保することが可能な「連携型中高一貫校」への移行をめざす。

- 連携型への移行について、本年4月下旬から5月上旬にかけて御所野学院や御所野小学校の保護者、地域住民など、学院関係者への説明会を開催するとともに、アンケートを実施し、約75%の賛成意見をいただきました。
- 教育委員会では、アンケート結果も踏まえ、御所野学院を併設型から連携型中高一貫校へ移行することとし、制度面についての検討を行いました。

## 2 御所野学院における連携型中高一貫校

連携型中高一貫校は、中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流などの連携を深める形で中高一貫教育を実施する学校です。

(御所野学院における連携型中高一貫校のイメージ)



### <御所野学院における連携型の特徴>

#### ○中高一貫教育プログラムを継続できる

- ・御所野学院は中高が併設されているため、中高の連携を図った教育活動を円滑に進めることが可能であり、学院の教育プログラムを概ね継続できる。

#### ○地元中学校（連携中）が設置できる

- ・御所野小児童は学院中学校に進学する。  
※希望により学区外からも入学者を受け入れる（特認校制度）
- ・学院中学校（連携中学校）の生徒が、学院高校または他の高校へ進学する際は、入学者選抜（高校入試）を受ける。
- ・学院中学校から学院高校への進学にあたっては、学力検査以外の資料によって入学者選抜（高校入試）を行う「連携枠」を設定する。

#### ○学院高校の定員の確保が期待できる

- ・入学者選抜（高校入試）により、高校入学段階で生徒を受け入れることができる。

### 3 御所野学院における連携型中高一貫制度について

#### (1) 連携対象校

秋田市立御所野学院中学校、秋田市立御所野学院高等学校

#### (2) 学区

- ・連携型となる御所野学院中学校の学区は、御所野小学校区と同一とする。
- ・連携型への移行後も、中学校・高校の連携した特色ある教育プログラムを実施することから、御所野小学校区以外から入学者を受け入れる特認校制度を適用する。入学希望者が多数の場合は、公開抽選会により決定する。

#### (3) 新制度への移行時期

平成29年度4月入学の中学1年生から

※平成28年4月以前に入学している学年（現在の学院中、学院高校の全学年）については、高校卒業まで併設型中高一貫校としてのカリキュラムを保障します。

#### (4) 学院高校の入学者選抜（平成32年度入学者から）

##### ①連携枠の設定について

- i) 実施方針 連携型中高一貫教育校であることを踏まえ、学力検査によらない選抜を行い、入学者を決定する。
- ii) 募集対象 御所野学院中学校3年生
- iii) 募集人数 連携枠による募集人数は、定員(80人)の3割以内とする。
- iv) 選抜方法
  - <日 程> 県立高校の前期選抜の日程と併せて実施する。
  - <選考方法> 調査書、志願理由書、面接の評価に関する資料等により、総合的に行う。

##### ②連携枠以外の入学者選抜について

- i) 実施方針 秋田市教育委員会内に「学院高校入学者選抜運営委員会（仮称）」を立ち上げ入学者選抜を実施する。
- ii) 募集対象 秋田市内の中学3年生
- iii) 募集人数 定員(80人)から連携枠により選抜された人数を除いた人数とする。
- iv) 選抜方法
  - <日 程> 県立高校の一般選抜の日程と併せて実施する。
  - <選考方法> 調査書、学力検査の成績、面接の評価に関する資料等により総合的に行う。
  - <そ の 他> ・連携枠で選抜されなかった生徒も志願することができる。  
・定員に満たない場合は、2次募集を行う。

#### 4 「御所野学院の今後のあり方（案）」に対する主なご意見について

御所野学院の今後のあり方についてのパブリックコメントを7月14日（木）から8月15日（月）にかけて実施したところ、賛成意見2件、反対意見2件、要望2件の計6件のご意見が寄せられました。

##### <連携型への移行について>

- ・併設型においては高校受験がないことも魅力の一つであったが、連携型では、それがなくなるため、一層の魅力ある学校づくりが必要である。
- ・連携枠希望者と学院からの受験希望者、他の高校への受験希望者が混在する状況は、生徒のモチベーションを維持する上で問題がある。
- ・この制度では、学力上位層が市内の進学校等に流出する現在の状況とほとんど変わらず、学院高校のレベルアップにつながらない。

##### <御所野地区を学区とする中学校の設置について>

- ・御所野学院中の生徒が増え、これまで以上に部活動等の活気が期待される。
- ・連携型への移行により学院中は地元の中学校となるが、中には部活動の理由などから御野場中への入学を希望するケースがでてくるのではないかと。

##### <特認校制度による他学区からの入学について>

- ・地元小学校になじめず地元中学校への入学をあきらめている児童の受け皿として、学院の存在は非常に大きい。

##### <入学者選抜について>

- ・高校入試により、定員の確保が期待できる。
- ・定員に満たない場合に2次募集をすることで生徒数の確保が期待できる。
- ・高校入学段階で、多様な進路選択が期待できる。
- ・連携枠の入学者選抜を学力検査によらないとしているが、どのような選抜方法を考えているのか。また、その選抜で高校入学者の質の保証ができるのか。
- ・学院高校の入学者選抜が平成32年度入学者からとなっているが、31年度入学者（現在の中学1年）から実施してほしい。

##### <中高一貫教育プログラムについて>

- ・表現科や郷土学においては、学院設立当初の高い目標設定に比べ、徐々に中身の浅さ等が目立っているように感じられるため、学院高校存続の理由として「価値ある教育プログラム」が挙げられていることに異議がある。
- ・御所野小の保護者の多くは、地元中学校としての学院中の必要性は認めているものの、みんなが中高一貫プログラムを望んでいるわけではない。
- ・これまでの中高一貫プログラムは、これまで第三者機関等による検証や見直しが行われておらず、生徒の立場に立ったプログラム構築がなされていない。